人口減少地域における商店街と大規模小売店舗の関係性に関する社会学的研究

2008 年入学

社会学・地域福祉社会学専門分野

2012 年 1 月 10 日

人口減少地域における商店街と大規模小売店舗の関係性に関する社会学的研究

目次

1　はじめに・・1
2　先行研究について
2.1.1　商店街の必要性の是非について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2.1.2　雇用面での長所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2.1.3　経済活性化における長所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2.2.1　商店街衰退と法律改正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2.2.2　大規模小売店舗の乱立の影響(商店街)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2.2.3　一般住民について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2.2.4　行政について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2.3.1　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3　問題意識と仮説
3.1　問題意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3.2　仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
4　リサーチ対象地域について
4.1　リサーチ対象地域について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
4.2.1　調査手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4.2.2　若宮町の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
4.2.3　福丸商店街の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
4.2.4　商店主の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
4.2.5　旧若宮町町民の買い物動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
4.2.6　福丸商店街の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
4.3　福丸商店街衰退のその他の要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
5　考察
5.1　調査手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
5.1.2　.調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
5.2　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
6　対策
6.1　まちづくりの必要性（行政）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
6.2.1　福丸商店街の取り組み（現状）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
6.2.2　福丸商店街独自の対策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
6.3.1　調査手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
6.3.2　直方市の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
6.3.3　直方の商店街の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

6.3.4　住民の意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
6.3.5　イオン開店による影響について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
6.3.6　五日市について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
6.3.7　福丸商店街の新規施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
6.3.8　福丸商店街の施策(2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
7　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
8　参考文献・ウェブページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
謝辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

要約

この論文は、商店街と大規模小売店舗の関係性を基に商店街がおかれた状況を分析し、商店街が成り立っている要素として商店主の自助努力に着目し、調査し、考察するものである。

本論文は以下の構成で成り立っている。まず、第二章第一節で商店街の必要性の是非について説く。そして、商店街が良質な雇用をしている事、地域活性化に積極的に貢献している事、地域の買い物の場を守っている事によって商店街の必要性を主張した。

次に二節で商店街を取り巻く環境について述べる。この記述に関しては大規模小売店舗との競争の中で商店街が衰退していかざるを得なかった社会的要素、または大規模小売店舗との関係性を重要視して述べている。非常に厳しい環境である事を述べ、それでもなぜ商店主が商店街の営業を継続するのかについて誘導し第三章につなげた。

第三章では本論文の中心である、「商店街は、現在非常に厳しい環境におかれており、成り立つ事は非常に厳しいようにみえるが現在でも店の数を減らしながらでも存続している店舗が非常に多く、その要因は商店主の意識・行動にあるはずである」といった問題意識を紹介し、その後仮説について検討している。

第四章では本論文の舞台となる宮若市の旧若宮町についてどのような環境であるか考察を加え、さらにその上で福丸商店街の分析、衰退した経緯に対して分析を加え、福丸商店街の商店主にとっていかに福丸商店街が厳しい環境であるかを述べている。

第五章では仮説と問題意識に基づいて行った調査結果について説明し、仮説の検討を行った。なお、そこで、この調査結果によって得られたといった結論を紹介している。

第六章では調査結果をもとに、福丸商店街が生き残る為に必要な対策を紹介している。まちづくりについて紹介し、福丸商店街の施策について分析し、その上で福丸商店街と似たような状況下であっても比較的にぎわっている直方市の施策を紹介した。最後に、最終手段としてけやき通りへの移転を提案し、本論文を閉めた。